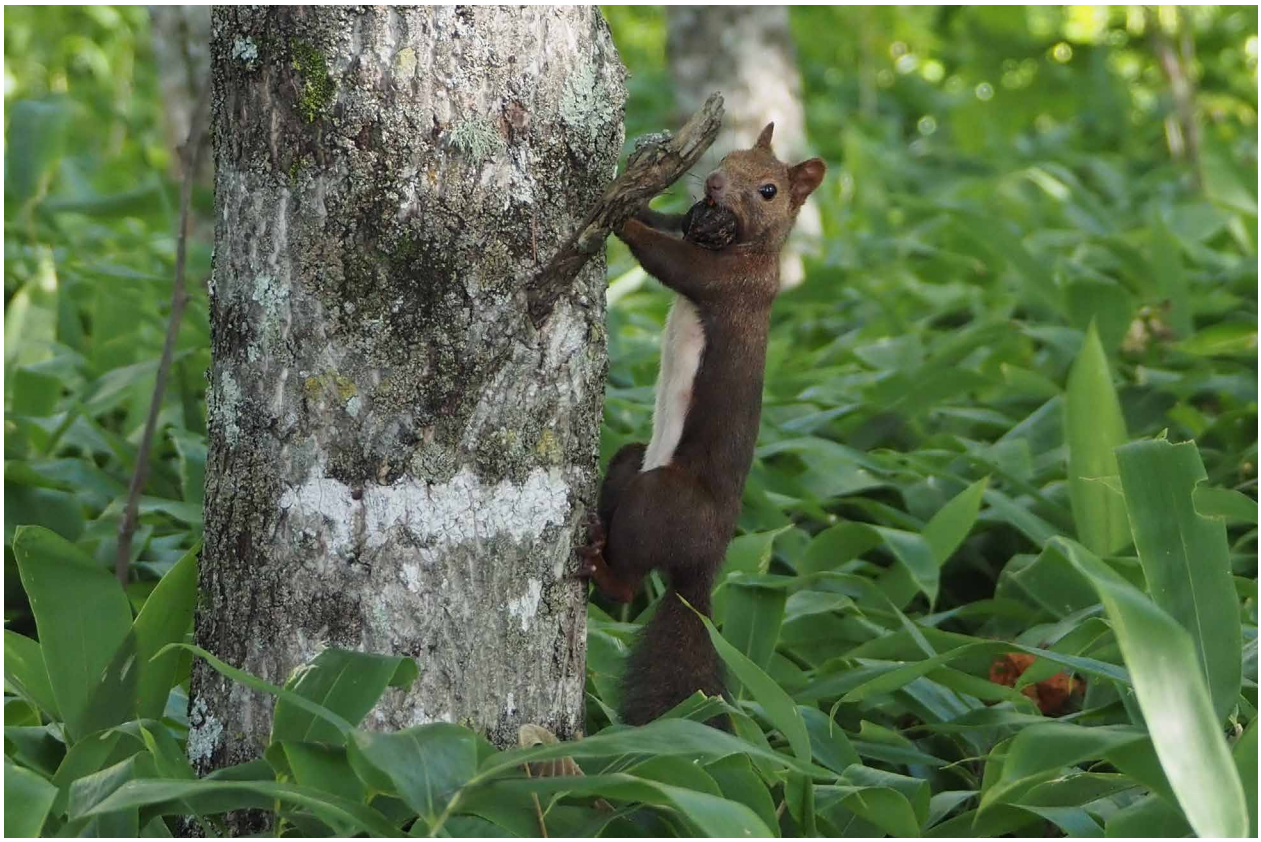
月刊 やちまなこ

2024.10.15 発行
No.323
10 月号

釧路湿原国立公園　塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



エゾリス（英名：Hokkaido Squirrel 学名：Sciurus vulgaris orientis）

塘路湖畔で目が合ったエゾリス。寒さがないせいかまだ耳毛が伸びていないようだ。冬眠せずに積雪前に貯食した木の実を食べて冬を越すが、隠した場所忘れるということから樹木の分布拡大に一役買っていると言われている。しかし、北海道大学の研究結果では、積雪前の貯食から 23 日後の積雪後に迷うことなく貯食場所に到達。精度の高い記憶能力を持つことが分かってきた。エゾリスや鳥の記憶力を過小評価しているのは人間の一方的な見方なのかもしれない。

塘路フィールドノート【9/15～10/14】

【野鳥】

渡り鳥の飛来が本格化しています。これから水鳥たちがさらに増え、晩秋には猛禽類も加わり渡り鳥たちの最盛期を迎えます。眼を引く白さの飛翔が目立って多く、ダイサギの数が例年にも増して多い印象です。

ヒドリガモ・ヨシガモ（シラルトロ湖）
左ヒドリガモ、右ヨシガモ。互いに喧嘩することなく平和に食事をしていました。

マガン（シラルトロ湖）
ヒシクイたちが食事している上を飛翔していました。行動を共にしているのかも。

ヒシクイ（シラルトロ湖）
第一陣は９月中旬にやってきました。数日ごとに群れが入れ代わり立ち代わりです。

ダイサギ（塘路湖）
冠羽を逆立ててマガモを威嚇し、お気に入りの場所を占拠しました。マガモは退散。

オオアカゲラ（茅沼）
アカゲラより一回り大きく嘴も長い。腹部にかけて黒斑と赤色も特徴です。キツツキ科

カイツブリ（シラルトロ湖）
お気に入りの場所なのか長期間見る機会が多いです。湖の凍結前に移動します。

【植物】

記録的な昨年の猛暑が本州では昨年以上にニュースになっていますが、釧路湿原周辺では昨年ほどではなかったようです。樹木にとっては気象条件が良かったのか木の実の豊作が明らかに目に付きます。

ツルウメモドキ（蔓梅擬）
様々な用途に用いられてきた歴史あるつる性植物。実の赤と仮種皮の黄が秋の風物詩。

チョウセンゴミシ（朝鮮五味子）
甘酸味・苦味・甘味・辛味・鹹味（塩からい）の５つの味から命名。薬用や果実酒に利用。

カンボク（肝木）
美しい赤色の実を付けますが、苦くてまずく「鳥喰わず」という別名があります。

ヤマブドウ（山葡萄）
今年は実の付きが良いのかあちこちで豊作のようです。完熟すると野鳥の大好物に。

ムシトリナデシコ（虫取撫子）
花に近い茎の節から粘液が出て、アリなど小さい虫がくっつく。江戸時代に西洋から定着。

ミゾソバ（溝蕎麦）
名は外形がソバに似て、生育場所が溝に多いことから。葉の形から別名ウシノヒタイ。タデ科

【昆虫】

秋といえば赤トンボの季節ですが、トンボ以外の昆虫たちも忘れてはなりません。見た目は様々、人間から見て気持ち悪く感じられる昆虫も、それぞれ生態系の中で役割を果たしています。

オオウラギンスジヒョウモン（塘路湖畔）
春に出現しますが、盛夏には夏眠して秋にまた活動することで知られます。

ハネナガフキバッタ（塘路湖畔）
イネ科やカヤツリグサ科を全く食べずにフキなどを好みます。今年は出現期間が長い。

シデムシ幼虫（コッタロ湿原）
近くで見るとなかなかの怖さを感じる虫ですが動物の死骸処理に一役買っています。

◎ムックリ作りを体験しました

９月 28 日、自然ふれあい行事「ムックリを作ってみよう」を開催しました。冒頭、講師の白糠アイヌ文化保存会・大森恵さんの実演奏のあと、標茶町博物館学芸員より、塘路地区とムックリの所縁について、また、アイヌが実際に使用していた原材料（木の種類）の話など、貴重な話が聞けました。講師の指導の下、試行錯誤しながら削り出した竹板に、持ち手となる左端には紐を通して長さを調整し小指を掛ける輪っかとし、右端の小さな穴に通した紐の先には竹ヒゴを結んで音が出る部分に振動を与える紐となり、ムックリは完成です。音出しは中々うまくいかず、参加者は「奏でる」という宿題を持ち帰りました。　　参加者５名

夢中で作業する参加者の皆さん

シマフクロウを知ってみよう 開催しました

10月5日（土）に座学イベント「シマフクロウを知ってみよう」を開催しました。環境省の若松徹・野生生物企画官を講師に迎え、謎の多い世界最大級のフクロウについて学びました。

魚を捕獲する様子やつがいの鳴き交わしの音声付動画を紹介しながら、増やす（人口給餌、巣箱）、減らさない（事故対応等）、知る・知ってもらう（標識調査、普及啓発等）という環境省の取り組みを紹介。また、国後島のシマフクロウは北海道と異なる樹木での営巣や河川の魚影の濃さも説明してくれました。

次のステージとして拡げる（分散拡大）という取り組みに入ること、懸案となる課題（事故、SNS、私的給餌等）も挙げて人里からそう遠くない所で鳴き声がするという将来的なビジョン等々講義していただきました。また、卵の実物とレプリカおよび羽根に触れる機会と巣箱を背負う貴重な体験ができました。

参加者 10名

【開館時間変更のお知らせ】

11月1日（月）よりセンターの開館時間が下記のとおり変更となります。

○ 10：00 ～ 17：00 → **10：00 ～ 16：00**（令和7年3月31日まで）

11月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

クリスマスリースを作ろう

[日　時] 11月30日（土）13時～15時

[定　員・参加料] 15名　500円（材料費）

[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター ◎**問合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで**

初冬の植物を見に行こう

[日　時] 11月10日（日）10時～12時

[定　員・参加料] 15名　無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎**申込・問合わせは温根内ビジターセンター（0154-65-2323）まで**

クリスマスリースを作ろう

[日　時] 11月24日（日）13時～15時

[定　員・参加料] 15名　500円（材料費）

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎**申込・問合わせは温根内ビジターセンターまで**

◆日出・日入時間　9/30(5:17,17:06). 10/15(5:34,16:40).10/31(5:54,16:16)

～指導員の独り言～

■1位「山」2位「鶴」3位「正」4位「宗」5位「菊」。

何のことかというと、日本酒の銘柄に付けられている漢字ランキングである。生き物では鶴が他を圧倒（200銘柄以上）。それほど日本人にとっては縁起の良いものとして「○○鶴」が定着している。また、田んぼと鶴の結びつきを指摘する見方もある。北海道では水田と鶴の組み合わせは本来なかった。全国一の耕地面積とタンチョウの分布拡大で、近い将来に水田に飛来するタンチョウの姿という日本古来の風景が北海道で普通に見られるかもしれない。

(M)

釧路湿原国立公園
塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと
〒088-2264　北海道川上郡標茶町塘路原野
TEL：015-487-3003　　FAX：015-487-3004
E-mail：emc@kushiro-shitsugen-np.jp
インスタグラム　torokoemc
開館時間：10：00 ～ 17：00
（11 ～ 3月：16：00 まで）
休館日：毎週水曜日　12月29日～1月3日
入館無料